

名称 所在	用途 (令別表)	発生日時等	構造・階層 面積	焼損程度 (焼損面積 延面積)	死傷者
今井ビル (二条プラザホテル) 北海道旭川市 二条6丁目	複合用途 (16)イ	昭和51年12月16日	耐火 4 建	全・㊦・部・小	死者
		出火0時35分ころ 覚知0時38分 覚知別 報知電話 鎮火2時28分	210m ² 延 1,056m ²	339m ² (32%)	3名 傷者 0名 ()

I 火災概要								
① 概 要	深夜、旭川の繁華街に建つ耐火造4階建の複合ビルの3階部分にあるホテル客室から出火し、3階を全焼し宿泊客3名が死亡した火災である。本建物は各階とも用途が異なり、ホテルといってもその1階層を占めるだけで、階段も1箇所しかないという典型的な雑居ビルであった。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死者	避難設備等	消防用設備等
	PH	22					屋内階段 (1F~4F) 1箇所 避難タラ ップ (B1) 1箇所 金属梯子 (3F) 1箇所	消 内 自
	4	210	129	住居	1			
	③	210	210	ホテル	6	3		
	2	210		バー、スナック	3			
	1	210		喫茶店、住居	6			
	B1	194		キャバレー ボイラー室	1			
	合計	1,056	339		17	3		
	③ 出 火 場 所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 3階ホテルの客室(304号室)から出火 ○客室はおおむね6畳間ぐらいの広さで、浴室・便所がついている内装は耐火ボードに一部クロス張りとなっていた。 ○廊下は合板張りで、防火塗料を塗っており、天井も同じであった。 ○ドアは合板たいこ張りとなっていた。				④ 出 火 原 因		

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<p>(出火部位) (出火室の拡大) (地階への拡大)</p> <pre> graph LR A[3階客室 304号室内] --- B[天井裏] B --- C[排気ダクトの スラブ貫通部 埋め戻し不施工部分] </pre>	
	<p>3階304号室から出火した火は、天井が耐火ボード張りで、扉が閉められている状態の中で煙焼状態にあったが、泊り客のA(25才、死亡)が、扉を開放したため、火勢が一挙に強まり、天井裏へ延焼し、スラブ下を広がり、排気ダクト脇のスラブの欠落箇所から4階の物入れ部分に燃えあがり、延焼拡大していた。</p>	
<p>○ 延焼拡大した主な理由 防火区画等が全くなく、ダクトには閉鎖機能がなく、貫通部は埋め戻しされていなかった。</p> <p>○ 煙の伝播経路 ○排気ダクトのスラブ貫通箇所の埋め戻しされていない部分 ○廊下、屋内階段</p>		
II 火災建物概要		
① 建築	<p>着工・竣工又は主たる改築等 (確認) 昭和39年8月13日 () 昭和 年 月 日</p>	
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況	③ 防 火 管 理 状 況
	<p>階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input checked="" type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/></p> <p>ダクト(3・4階部分)には、閉鎖機能がなく、貫通部には埋め戻しがなされていなかった。</p>	<p>○防火管理者未選任 ○消防計画未作成 ○避難・消火訓練未実施 ○消防用設備等の点検未実施</p>
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等	⑤ 消 防 用 設 備 等
	<p>防火区画等は全くなかった。</p>	<p>査察指摘事項 1. 消火器設置数不足 2. 1階、2階に感知器機能不良箇所あり 3. 地階誘導灯設置個数不足</p>

III 火災後の行動	
① 発 見 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発見者 (宿泊客) ○ 発見の動機 (自動火災報知設備のベル音) ○ 発見後の行動 (通報)
	<p>○ ホテルに長期滞在しているA(男, 31才)は、余りベルが長く続くので、変に思い自室の307号室から廊下に出たとき、何かキナ臭いにおいがした。その時、向い側の304号室のドアが開き、若い男が飛び出してきたので室内をみると「赤いもの」と「煙」が見えたので火事と直感した。</p> <p>○ ホテル従業員A(女, 67才)はフロントで勤務中、自動火災報知設備のベル鳴動で3階出火を知り、廊下に出てみたが異常がないので4階の社長宅へ連絡しているが応答がなかった。そのうち2階の表示が出たので(2階の人がベルを止めようとして発信機を押した為であった)確めに降りているが、火災を確認してはいない。</p>
② 通 報 状 況	通 報 した <input checked="" type="checkbox"/> (宿 泊 客) 出火後約(3)分 通 報 しない <input type="checkbox"/>
	3階307号室の宿泊客は、前記により火災を発見し、直ちに通報している。
③ 初 期 消 火 状 況	消 火 した 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/>
	消 火 しない ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/> ○ その他 <input type="checkbox"/>
(理由又は状況) 自動火災報知設備のベルが鳴動したが、確認に手間どり、また宿泊客が発見した時には火勢が拡大しており通報し避難するだけで精一杯であった。	
④ 消 火 活 動 概 要	(消防上の支障・困難性等) ○ 建物構造が中廊下型式となっていたため、濃煙・熱気が滞留し消防活動が困難を極めた。 ○ 建物関係者から在館者についての情報が適格に消防隊へ伝達されなかったことと、特種な用途の建物であるため、避難した宿泊客もそのまま現場を離れてしまったため、消防機関が内部の状況を確認するのに相当てまどった。

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項
⑤ 避 難 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (2 人) ○エレベーター, エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓, 開口部から直接地上へ <input checked="" type="checkbox"/> (2 人) ○救 助 <input type="checkbox"/> (人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	<ul style="list-style-type: none"> ○301号室の男客はテレビを見ていたため, 気付くのが遅れ, 窓から看板を伝わり地上へ避難した。 ○307号室の客(通報者)1名とホテル管理人は階段より避難した。 ○4階に就寝していた社長は, 煙に気づき窓より棟続きの屋根に飛び降り避難した。 	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 3名 (泥酔者 名) 要保護者 名 [乳幼児 名 高齢者 名 身体不 自由者 名 病人 名]	避難上支障となった事項 <ul style="list-style-type: none"> ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	<ul style="list-style-type: none"> ○308号室の男客(21才)は出火当時就寝中と思われ, 自室の前の廊下で死亡していた。 ○出火室である304号室の2人も廊下で死亡していたが, 男客(25才)は階段方向の廊下, 女客(15才)は反対方向の突きあたりに倒れていた。 	
IV 問題点・教訓等		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ホテル・キャバレー等の特種用途が雑居する, この種の建物は, 防火管理体制の徹底や消防用設備等の維持管理等が極めて難しい現状にあるので, 積極的な査察を実施して, オーナー, 管理者等に対し認識を徹底していく必要がある。 2. 2方向避難については, いかなる状況にあっても確保させるよう指導を徹底する必要がある。 		

